

自治体の課題、現状

公立中学校の部活動の地域連携・地域移行は、島根県のような、ほとんどの地域が中山間地域や離島である地方にとっては、人材や受け皿の確保がより困難であり、また、活動拠点や移動手段といった課題も多いことから、県全体で一律に推し進めていくことは難しい状況である。

令和7年3月時点で、県内19市町村のうち、地域移行等に係る協議会や検討会議等を設置している市町村は7市町村、推進計画を策定している市町村は3市町村にとどまり、全国の状況と比べると低い割合となっている。また、島根県では、2030年に開催される国民スポーツ大会に向けて、競技力向上の取組を強化しており、重要な役割を果たす部活動の地域移行は、この中で並行して行っていく必要がある。

このような状況下、公立中学校の設置者である市町村は、それぞれの実情に応じ、主体的に学校部活動単位で方向性等を検討し始めており、県としては各種情報提供や地域人材の活用等の支援を行うことで、地域移行・地域連携に取り組もうとしている市町村を支援し、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会や環境を整備していく必要があると考える。

地域移行関連の取組、成果

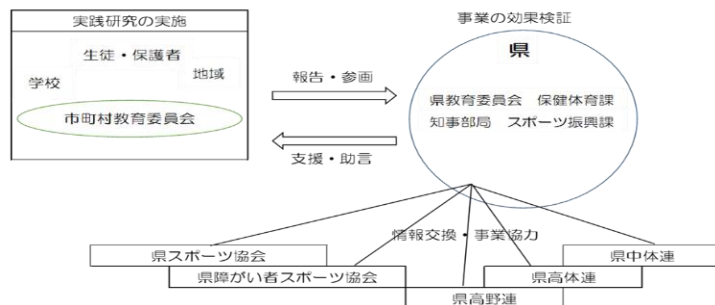
島根県部活動地域移行検討委員会を設置し、本県の生徒にとってふさわしいスポーツ・文化芸術活動環境の構築に資する、学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等を検討し、様々な立場や観点での意見を聴取し議論を重ねることにより、「島根県公立中学校における部活動の地域連携・地域移行に係る方針」を策定した。（令和7年3月）また、市町村連絡会議を年2回開催し、各市町村の検討状況や、具体的な実施内容についての共有、意見交換等を行った。各市町村の担当者がその場で話をする場面もあり、広域的なつながりを作る一助となった。

また、令和6年度には2市において、実証事業を実施し、地域クラブ活動を実施していくための方策を模索しているところである。

県としては、市町村の取組状況の把握に努め、市町村が情報共有できる機会の確保及び支援や他県・他地域での取組事例の紹介等、情報提供を行うとともに、将来的に地域のスポーツ・文化芸術活動の指導者となり得る人材の育成・確保のため、部活動への部活動指導員等の配置といった地域人材の育成・活用に係る支援を引き続き行っていく。

運営体制図

地域スポーツクラブ活動体制整備事業推進体制（イメージ図）



自治体の課題、現状

益田市は9校の公立中学校があり、生徒数は1,161人で41部活動が設置されている。生徒数は年々減少しており、小規模校が多いため単独校でチーム編成ができず、他校との合同チーム編成が増えてきている。また、廃部も進みつつあり、生徒の選択肢が少なくなることで、活動の場を求めて地域クラブに入会したり、校区外就学をしたりするケースが増えつつある。部活動では支えきれなくなっているスポーツに親しむ環境について、今後は学校単位から地域単位での活動に積極的に変え、持続可能で多様な体験機会を確保する必要がある。

地域スポーツクラブ活動等の概要

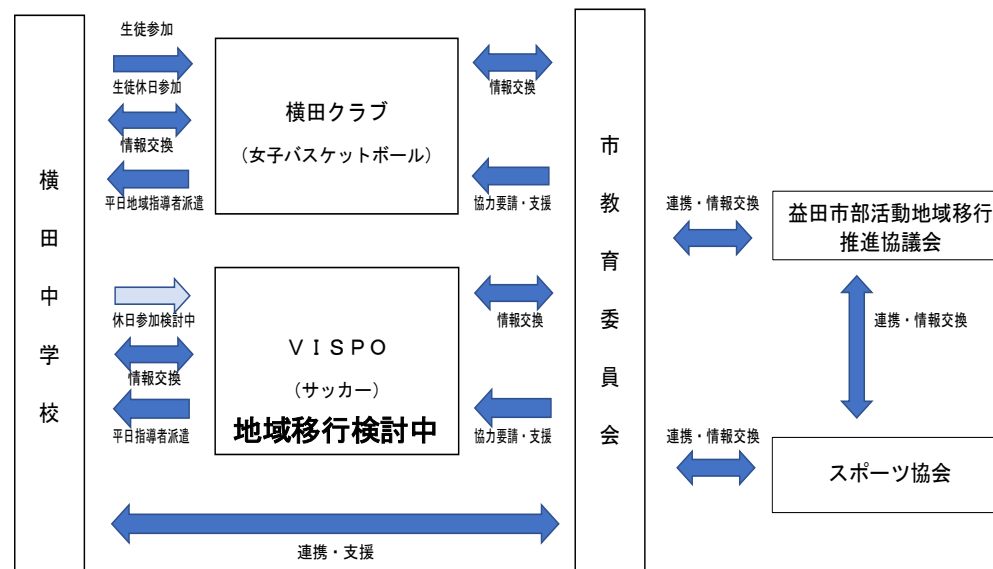
中学校数	1校	全生徒数	94人
域内の部活動数	3部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	横田クラブ		
主な種目	バスケットボール		
平均的な活動回数	バスケット 15回/月	年間平均参加生徒実数	3年：2人/クラブ 2年：7人/クラブ 1年：1人/クラブ
参加会費	バスケット26,400円/年	主な活動場所	横田中学校

地域移行関連の取組、成果

○バスケットボールは平日は部活動、休日は横田クラブとして活動した。横田クラブの指導者は部活動の地域指導者で、同じ指導者が指導に当たっているため、一貫した指導が受けることができ信頼も厚い。

【参考】サッカー部の地域指導者で地元の小学生スポーツクラブであるVISPOの指導者は、生徒たちを小学生の時から指導してきているので、システマティックな指導が可能である。現在は地域連携の取組であるが、休日の地域移行に向けて検討を進めている。

運営体制図



### 自治体の課題、現状

- ① 学校規模の格差による生徒が選択できる部活動に大きな差が生じている。
- ② 少子高齢化のさらなる進展によりチームの編成に苦労したりする状況がある。
- ③ 中山間地ならではの広域な通学区域と公共交通機関の便が悪いため移動には借り上げたバスや保護者輸送に頼らざるを得ない。
- ④ 部活動の指導について専門的な知識・技能を有する教職員の確保がむずかしい。

### 地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	6校	全生徒数	882人
域内の部活動数	41部	実施した地域クラブ数	13クラブ
全体の指導者数	70人 (登録101人)	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	(株)キラキラ雲南		
主な種目	陸上、バレー(男女)、バスケ、サッカー、ソフトテニス、野球、ソフトボール、柔道、剣道・・・		
平均的な活動回数	2回/月(10月～1月)	年間：参加生徒延べ数	802人
参加会費	2,000円/年	主な活動場所	学校施設ほか

### 地域移行関連の取組、成果

- ① 実証事業を通して今後の地域展開のスケジュールやスキームを検討し「雲南市中学校部活動の地域展開に関するガイドライン」を策定した
- ② 実証事業を通して指導者の確保、資質の向上に取り組めた
- ③ 実証事業を通して多くの種目で生徒が地域指導者から指導を受ける機会の創出ができた＝指導者バンク登録者を活用して地域クラブ活動への展開(移行)を試行できた(休日部活動の地域展開)
- ④ 実証事業を通して地域クラブへの展開の見通しと手ごたえを持つことができた(教育委員会、運営主体：再委託先、実施主体：地域指導者＝指導者バンク登録者、学校、生徒・保護者)

### 運営体制図

